

ひと

日本人の寿命に注目するハーバード大教授

Ichiro Kawachi

イチロー・カワチ さん (50)



日本人はなぜ長寿なのか、理由を探ってきた。他国と比べ、塩分や酒の量も多い。喫煙率も高い。働き過ぎでもある。では、何が？

「『お互い様』という言葉にあるように、人の間にある信頼感や支え合いの気持ち、寿命にも影響してきたのでは」

「社会疫学」の第一人者。社会のありようと健康の関係を、集団

データから探り出してきた。

12歳まで日本で育った。地質学者の父の仕事でニュージーランドへ。内科医になり同国で2年間、心臓病や脳卒中の患者をみた。偏食に喫煙。みな、似た生活習慣を経ていた。治療は「傷口に絆創膏を貼るだけのようなもの」。疑問を抱き、予防へと進路を変えた。

受動喫煙の影響を論文にまとめ、同国の法規制を後押しした。何万人もの健康につながる魅力を知り、31歳で疫学の先進地、米国へ渡った。米国は貧富の差が激しく、先進国のわりに寿命が短い。対照的に、格差が小さく、長寿の人が多い日本に目が向いた。

そんな日本でも格差が広がっている。政府は7月に出した今後10年の健康政策の方針で、初めて「健康格差の縮小」を掲げた。

「格差がストレスを生み出し、信頼や規範を弱めているのではないか。日本社会の結束の強さは目に見えない。だけど、それが長寿を支えているのなら、守るための社会を作っていくべきです」

文・錦光山雅子 写真・越田省吾